

# 平成30年度 児童生徒の平和に関する図画・作文コンクール

## <審査員一同>作文の部【講評】

今年度は、作文の部で小学校から147編、中学校から38編、合計185編の応募があった。これは昨年の99編を大きく上回る応募数である。応募してくれた子ども達をはじめご指導頂いた関係各位に心より感謝したい。

厳正に審査した結果、小学生は村長賞1名、教育長賞2名、優秀賞5名、入選10名が受賞した。また、中学生は、村長賞1名、教育長賞2名、優秀賞5名、入選5名が受賞した。

この「児童・生徒の平和に関する図画・作文コンクール」は、第一に「歴史の実相を次の世代へ正しく継承し、平和を尊ぶ心を育てること」、第二に「作文を書くという創作活動により、平和メッセージを発信する」という2つの趣旨で実施されている。

戦後73年の歳月が経った今、戦争体験者が高齢になり、「語り部」の方々も減少し、歴史実相を伝承することが厳しい状況にある。だからこそ、本コンクールが、「平和行政推進事業」の一環として企画される意義は極めて大きく、作文の内容にもその趣旨が生かされ、児童・生徒の平和を希求する思いが伝わる作品が多かった。さらに、これからの社会を生きていく上でとても大切な「表現力」の育成に資する貴重な機会となったことも高く評価したい。

作文審査については、内容を重視し、表現方法、学年の発達段階等も考慮しつつ、慎重かつ丁寧に審査し、下記のとおり講評する。

### 1. 審査するにあたって

- (1) 今回から、審査の基準が明確に示されよかった
- (2) 審査を通して児童生徒の作文力や平和教育に関する現状をある程度把握できた
- (3) 「基準の設定」を明確にする事によって、審査の視点がはっきりした
- (4) 今回で11回目を迎え、児童生徒が「平和」について考える大切な機会が年々充実してきている

### 2. 学校での取り組みでよかったこと

- (1) 「平和」について教科、学校行事等で横断的・総合的な指導が行われている
- (2) 戦争体験者、平和ガイド、学芸員等外部講師を活用して効果的な指導が行われている
- (3) 「タイムスワラビー」を活用した指導が行われる等、NIE教育が実践されている
- (4) 「チビチリガマ」「シムクガマ」2つのガマの出来事を比較し、深く考えている
- (5) 昨年の「チビチリガマ」の事件に関し、子ども達の立場から二度と過ちが起こらない起こさせない為の方策をしっかりと考えている
- (6) 「平和」について、本村では小学校から中学校まで継続した指導が行われている

### 3.家庭かていにおける取り組みとくくとして

- (1)曾祖母そそふぼ・祖母そふぼなどの体験たいけんを家庭かていで伝つたえている
- (2)家族かぞくで「沖縄戦おきなわせん」関連かんれんの企画展きかくてんに参観さんかんしている

### 4.地域ちいきにおける取り組みとくくとして

- (1)各自治体かくじちたいで開催かいさいされた慰霊祭いれいさいに児童生徒じどうせいとが多く参加おおさんかしている

### 5.作文さくぶんの指導しどうについて

- (1)数字すうじの表記ひょうきの仕方しかた「1.2.3」を「一、二、三」としては
- (2)お父さんとう→父ちち、おじいちゃんおじいちゃん→祖父そふとしては
- (3)誤字ごじ 感心かんしん → 関心かんしん
- (4)ひらがなが多いおお→習ならった漢字かんじは、できるだけ使つかい読みよやすい文章ぶんしょうにする
- (5)作文さくぶんの字じが小ちいさすぎるさるのがいくつかあった

### 6.今後こんご期待きたいしたいこと

- (1)新装しんそうオープンした「ユンタンザミュージアム」と本ほんコンクールが相連携そうれんけいし更さらに発展はってんすることを期待きたいしたい
- (2)「未来みらいを創つくる子どもたちの意見いけん」を多くの村民おおに伝そんみんえる工夫つたをお願くふういしたい